

(電子メール施行)
農技第 1414 号
令和4年7月21日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和4年度病虫害発生予報第3号を發表します。

令和4年度病虫害発生予報 第3号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病	平年並	やや少
	紋枯病	平年並	やや少
	縞葉枯病	平年並	やや少
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
	ツマグロヨコバイ	平年並	やや少
	セジロウンカ	平年並	平年並
	トビイロウンカ	平年並	少
	斑点米カメムシ類	やや多	平年並
	イネツトムシ	やや少	少
	フタオビコヤガ	やや少	やや少
	コブノメイガ	やや少	少
ナシ	黒斑病	やや多	やや多
	黒星病	平年並	やや少
	シンクイムシ類	平年並	平年並
	ハマキムシ類	やや少	やや少
	ハダニ類	やや多	やや多
	カメムシ類	やや多	やや多
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
	シロイチモジヨトウ	やや多	やや多
	ハイマダラノメイガ	やや多	やや多
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(7月16日から8月15日までの天候見通し)

令和4年7月14日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1か月予報(07/16~08/15)		
2022年07月14日 14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	なし。	
向こう1か月 07/16~08/15	天候	平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率50%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 07/16~07/22	気温	1週目は、平年並の確率50%です。
2週目 07/23~07/29	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
3~4週目 07/30~08/12	気温	3~4週目は、高い確率50%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 07/16~08/15	
		1週目 07/16~07/22	
		2週目 07/23~07/29	
		3~4週目 07/30~08/12	
降水量	近畿地方	向こう1か月 07/16~08/15	
日照時間	近畿地方	向こう1か月 07/16~08/15	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の場内圃場^ほ（加西市）では発病株率2.0%（平年値2.1%）、6月下旬の現地圃場でも発病株率1.4%（同0.9%）の発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～多いと予想されており、本病原菌の増殖に好適である。本年は平年より3週間早く梅雨明けしたが、その後、周期的な降雨が続いていることから、平年並の発生になると考えられる。

ウ 兵庫県病害虫防除所HPで、いもち病の感染好適条件の出現状況をBLASTAMとして提供しているので参考にすること（hyogo-nourinsuisangc.jp）。

2 【紋枯病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の場内圃場（加西市、朝来市）では発生は確認されていないが、現地圃場でわずかに発生が確認されている。

イ 水稻気象感応調査（加西市、朝来市、加東市）では、茎数が平年より極めて多くなっている。株内及び株間の湿度が高くなって、発病に好適な条件である。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～多いと予想されているため、平年並の発生になると考えられる。

3 【縞葉枯病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の場内圃場（加西市、朝来市）では発生は確認されていないが、現地圃場でわずかに発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本病原ウイルスを媒介するヒメトビウンカの増殖が進むことから、平年並の発生になると考えられる。

ウ 今年度の第1世代虫（コムギ採集個体）のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果については、兵庫県病害虫防除所ホームページを参考にすること（http://bo.io.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/uploads/2022/07/ヒメトビ保毒虫検定結果発表用_2022.06.pdf）。

4 【ヒメトビウンカ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月下旬の現地圃場でのすくい取り調査(10回振り)では成虫0.5頭(同0.3頭)であり、早期水稻での発生圃場率は18.5%(同16.7%)であった。7月上旬の場内圃場でのすくい取り調査では、加西市で成虫1.0頭(平年値2.3頭)、幼虫16.0頭(同2.4頭)であり、朝来市で成虫1.5頭(同1.2頭)、幼虫3.3頭(同2.4頭)と平年並の発生であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くことから、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 本田における初期発病株(葉色が薄くなり巻いて垂れ下がる症状を現す)は、媒介虫である本種の新たなウイルス獲得源となり、後期発病(出穂異常)を助長するので、速やかに抜き取る。

イ 初期発病株が多数確認される場合は、後期発病を予防するため、ヒメトビウンカに対する本田防除を実施する。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。

エ 今年度の第1世代虫(コムギ採集個体)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果については、兵庫県病害虫防除所ホームページを参考にすること(http://bo.io.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/uploads/2022/07/ヒメトビ保毒虫検定結果発表用_2022.06.pdf)。

5 【ツマグロヨコバイ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 予察灯の6月～7月2半旬の合計誘殺数は、加西市(農技センター内)で4.0頭(平年値6.9頭)、南あわじ市(淡路農技内)で11.0頭(同16.5頭)、朝来市(北部農技内)で0.0頭(同0.7頭)であった。

イ 6月下旬の現地圃場でのすくい取り調査(10回振り)では、成虫0.5頭(同0.4頭)、幼虫0.1頭(同0.1頭)であった。場内圃場(加西市)における7月上旬のすくい取り調査では、成虫0.0頭(平年値1.0頭)、幼虫1.0頭(同1.5頭)とやや少ない発生であった。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種に好適な条件が続くことから、平年並の発生になると考えられる。

6 【セジロウンカ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 今季、予察灯における初誘殺は、加西の6月27日で雌1頭・雄1頭であった。また、予察灯の6月～7月2半旬の合計誘殺数は、加西市(農技センター内)で

3.0頭（平年値1.3頭）、南あわじ市（淡路農技内）で0.0頭（同11.0頭）、朝来市（北部農技内）で0.0頭（同2.0頭）であった。

イ 6月下旬の現地圃場でのすくい取り調査（10回振り）では、成虫0.1頭（同0.2頭）であり、早期水稻での発生圃場率は9.3%（同12.7%）であった。場内圃場（加西市）における7月上旬のすくい取り調査では、成虫0.0頭（平年値0.6頭）、幼虫2.0頭（同5.6頭）であった。

ウ 本種は「夏ウンカ」として知られており、生育初中期のイネで増殖しやすい。今後、イネの生育が進むに従って、増殖好適期が過ぎることから、平年並の発生で推移すると考えられる。

7 【トビイロウンカ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 予察灯への誘殺はまだ確認されていない。また、7月上旬の場内圃場（加西市、朝来市）及び現地圃場でも発生は確認されていない。

イ 本種はセジロウンカと同じく気流によって、中国大陸から飛来する。現時点で発生は確認されていないが、気象データを用いた解析からは、飛来に好適な条件が5月～7月2半旬までに複数回示されている。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件となるので、現時点では、平年並の発生を予想している。

8 【斑点米カメムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 予察灯では、6月以降誘殺が続いており、加西市（農技センター内）での7月1半旬の斑点米カメムシ類（カスミカメムシ類）の誘殺数は76.0頭（平年値69.1頭）であった。ミナミアオカメムシについては、例年より早い6月下旬に誘殺が確認されており、イネカメムシの誘殺は、7月上旬に確認されている。出穂が極端に早い、あるいは遅い圃場についてはこれらカメムシ等の被害を受けるリスクが高いため、注意が必要である。

イ 7月上旬の現地圃場でも発生が確認されている。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、今後水稻の出穂期を迎えて、餌資源が増えるため、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 出穂期までに生息場所である圃場周辺（畦畔等）の除草を行い生息密度の低下を図ること。ただし出穂直前と出穂後の畦畔除草は本田へのカメムシ類の侵入を助長するので避けること。

イ 農薬散布は出穂期以降に実施すること。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること（<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>）。

9 【イネツトムシ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 7月上旬の場内圃場（加西市、朝来市）及び現地圃場において発生は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種に好適な条件となることから、発生が見られるようになると考えられる。

10 【フタオビコヤガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 7月上旬の場内圃場（加西市、朝来市）では発生は確認されていないが、現地圃場でわずかに発生が確認されている。
- イ 今後1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されているが、イネの生育状態が本種の加害好適期を過ぎているため、やや少ない発生で推移すると考えられる。

11 【コブノメイガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 7月上旬の場内圃場（加西市、朝来市）及び現地圃場において発生は確認されていない。
- イ 本種はセジロウンカなどと同様に海外から飛来する。今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種に好適な条件となることから、発生が見られるようになると考えられる。

ナシ

1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 7月上旬の場内圃場（朝来市）及び現地圃場では短果枝の発病葉率10.0%（平年値6.2%）、発生圃場率100%（同65.0%）、発育枝の発病葉率0.5%（同2.2%）、発生圃場率40.0%（同50.0%）とやや多い発生が確認されている。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～多いと予想されているため、やや多い発生のまま推移すると考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア 農薬散布時は、薬液が十分かかるように不要な徒長枝を切り落とすこと。
- イ 大袋かけ前は黒斑病の重点防除時期なので、ていねいに薬剤散布する。
- ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。

2 【黒星病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 6月下旬の場内圃場（朝来市）及び現地圃場ではわずかに発生が確認されている。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～多いと予想されており、本病に好適な条件となるため、平年並の発生になると考えられる。

3 【シンクイムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 6月～7月2半旬のフェロモントラップ(ナシヒメシンクイ)の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）では21.2頭(平年値14.2頭)、朝来市（北部農技内）では0.0頭(同8.1頭)であった。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、地域差はあるものの平年並の発生で推移すると考えられる。

4 【ハマキムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 加西市（農技センター内）に設置しているフェロモントラップ（チャハマキ）の6月～7月2半旬の合計誘殺数は、1.0頭（平年値4.5頭）とやや少ない誘殺であった。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されているが、本種の発生最盛期は過ぎているため、やや少ない発生のまま推移すると考えられる。

5 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
- (2) 予報の根拠
- ア 7月上旬の場内圃場（朝来市）及び現地圃場では、寄生葉率32.0%（平年値21.1%）、発生圃場率60.0%（同52.4%）とやや多い発生であった。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、ハダニ類に好適な条件となることから、やや多い発生で推移すると考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア 早期発見に努め、早期の防除を実施する。
- イ 農薬散布時は、薬液が茎葉に十分かかるように不要な徒長枝を剪去し、ていねいに防除する。
- ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)。

6 【カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は表年（発生が多い年）に該当する。6月のフェロモントラップ（チャバネアオカメムシ）での合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で407.0頭（表年の過去6年分平均値177.9頭）、朝来市（北部農技内）では566.1頭（表年の過去4年分平均値120.8頭）とやや多い誘殺であった。

イ 8月以降、次世代虫の出現期を迎えることから、引き続きやや多い発生で推移すると考えられる。

ウ 本種については、7月8日付で病虫害発生予察防除情報第3号を発表している。詳細については、これを参考にすること(hyogo-nourinsuisangc.jp)。

(3) 防除上の留意点

ア 有袋栽培の圃場における収穫直前の袋除去時にの被害に合いやすいので注意すること。また、有袋の状態でも、果実が肥大して果実袋に密着すると、袋の上から吸汁されることがあるので注意する。

イ 飛来状況は地域や園地で異なるため、定期的に園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること(<http://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/hyog>)。

野菜共通

1 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月～7月2半旬のフェロモントラップの合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で113.3頭（平年値203.1頭）、南あわじ市（淡路農技内）で121.4頭（同175.0頭）、朝来市（北部農技内）で65.6頭（同66.1頭）と平年並の誘殺が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くことから、野菜類での幼虫の発生に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 本種の幼虫は、ピーマン、ナス、キャベツ、レタスをはじめ多くの野菜類を加害する。

イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

エ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること(<http://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/hyog>)。

2 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月～7月2半旬のフェロモントラップ合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で61.3頭（平年値37.5頭）、南あわじ市（淡路農技内）で306.0頭（同131.4頭）、朝来市（北部農技内）で44.8頭（同17.6頭）とやや多い誘殺が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くことから、野菜類での幼虫の発生に注意が必要である

(3) 防除上の留意点

ア 本種の加害植物は、キャベツ、ピーマン、ナス、レタスをはじめ多くの野菜類のほか、豆類、花き類など広い範囲に及ぶ。

イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意すること。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること（<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>）。

3 【ハイマダラノメイガ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 加西市（農技センター内）で実施している誘致植物^{*1}（クレオメ）での調査では、6月下旬から幼虫の発生が見られている。7月以降、寄生花枝率^{*2}は増加傾向を示しており、7月上旬の寄生花枝率は、26.0%（平年値5.9%）であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されていることから、本種の増殖が助長されると考えられる。

※1 対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調べるために用いられる。

※2 クレオメは頂部に花が咲く分枝（花枝）を連続して展開する。ハイマダラノメイガの発生予察では、この花枝を調査単位としている。

(3) 防除上の留意点

ア 本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。

イ 8月中旬以降に育苗や播種・定植をする場合は、本種による加害が起こることを想定し、防除に努める。

ウ 幼虫が生長点を食害するため、発生を確認してからの防除では手遅れなので、育苗期や定植直後の予防的防除に努める。

エ 播種・定植時や育苗期に、粒剤や灌注で薬剤処理をした場合でも、その後の被害発生に注意する。天候等の条件により期待した防除効果が得られないこともあるので、本圃での薬剤防除の準備をしておくことが望ましい。

オ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること（<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>）。

果樹共通

1 【果樹カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア ナシのカメムシ類の項で述べたとおり、加西市（農技センター内）及び朝来市（北部農技内）に設置しているフェロモントラップでは、誘殺数の多い状況が続いている。

イ 予察灯におけるチャバネアオカメムシの6月～7月2半旬までの合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で46.0頭（表年過去6年分平均値11.8頭）、朝来市（北部農技内）で231.0頭（同74.6頭）である。この他にもツヤアオカメムシやクサギカメムシの誘殺も例年よりやや多く確認されている。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、カキ、カンキツ等の果樹類では、被害が発生しやすい状況になっていると考えられる。

エ 8月以降、次世代虫の出現期を迎えることから、引き続きやや多い発生で推移すると考えられる。

オ 本種については、7月8日付で病害虫発生予察防除情報第3号を発表している。詳細については、これを参考にすること(hyogo-nourinsuisangc.jp)。

(3) 防除上の留意点

ア 飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)。

*** この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載**
(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

2022年3月1日より「兵庫県病害虫防除所」Twitterを開設しました！
発生予察情報など病害虫に関する情報を提供しますので、是非フォローお願いします。
Twitterアカウント(http://twitter.com/hyogo_boujoshou)

